

論文：

SDG s と家庭科の学習について

内田 伸

Concerning SDGs and the Study of Home Economics

UCHIDA Naka

要 旨

現在、全世界で注視しているSDG sについて、日本では意識が低く、目標達成には程遠い現状にある。小学校・中学校・高等学校と家庭科の内容からSDG sについて、学習内容に深い関係があると考え。現状把握について指導しているが、意識改革までには至っていないところがある。そこで、高校家庭科の学習で取り上げ高校生としてできることはないか考察することとした。具体的に授業で示すことにより、さらなる意識の向上及び実践的活動に繋げたい。

1 はじめに

SDG sについて、世界では目標達成のためあらゆる努力をすることが求められている。

日本では、経済、文化、教育方面で積極的に進めてきているが結果的にはいまだ目標達成には届いていないのが現状である。

今後の社会を担う生徒には、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められている。

そこで、持続可能な社会の構築について高校生でもSDG s達成に貢献できると考え、高校家庭科の授業において、意識を高めその課題を学習することとした。小・中・高等学校において家庭科の授業は行われているが、生活経験が乏しいため、実生活への活用の意識が低いことが現状である。実際の家庭科の授業でSDG s達成につながる内容を具体的取り上げることとし、衣生活・食生活・消費経済の指導案を示す。

2 SDG sとは

SDG sは「Sustainable Development Goals」の略称である。2015年9月ニューヨーク国連本部で行われた国連サミットで採択された、国連加盟国193カ国が達成を目指す、2016年から2030年までの国際目標である。17の目標は以下のとおりである。

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10人や国の不平等をなくそう
- 11住み続けられるまちづくりを
- 12つくる責任つかう責任
- 13気候変動に具体的な対策を
- 14海の豊かさを守ろう
- 15陸の豊かさを守ろう
- 16平和と公正をすべての人に
- 17パートナーシップで目標を達成しよう

3 2015年国連で採択されたSDG s（持続可能な開発目標）の達成について

2019年ベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューション・ネットワークから発表されたSDG s達成ランキングでは162カ国中15位 また、日本は17の目標のうち達成されていると評価されたのは目標④「質の高い教育をみんなに」 目標⑨「産業と技術革新の基盤を作ろう」の2つのみでその他は、

未達成となっている。

そのうち「達成にはほど遠い」とされる目標は、目標⑤「ジェンダー平等を実現しよう」目標⑫「つくる責任つかう責任」目標⑬「気候変動に具体的な対策を」目標⑰「パートナーシップで目標を達成しよう」では、低い評価となっている

2018年版「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」で調査対象149カ国のうち110位とG7参加国で最下位だった。日本では、男女の格差が賃金・職場での不平等が寝強く残っている。また、再生エネルギーについての取り組みや漁業資源な管理など日本には課題が山積している。

4 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編では、衣食住について以下のように述べている

【高等学校 家庭科】

- 高等学校家庭科の教育内容については、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、男女が協力して主体的に家庭を築いてくことや親の役割と子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活を設計するための意思決定や消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習活動を充実する。また、これらの学習により身に付けた知識・技能を活用して、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実する。
- これらのことを踏まえ、「家庭基礎」では、子供を生き育てることや子供と関わる力を身に付けるなどの乳児期に関する内容や、高齢者の生活支援技術の基礎に関する内容を充実する。また、自立した生活者として必要な衣食住の生活や生活における経済の計画等などの実践力の定着を図るための学習活動を充実する。
- なお、小学校の家庭科、中学校の技術・家庭科家庭分野においては、生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を一層充実する。
- 教科目標の改善
中央教育審議会の答申に示された学習指導要領等改訂の基本的な方向性及び各教科等における改訂の具体的な方向性を踏まえ、家庭科においては、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指して、目標及び内容について、次のように改善を図っている。教科目標については、今回の改訂の基本方針を踏ま

え、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にした。(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示した。また、(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い学びを実現するために、家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることを示している。

- 5 高校家庭科の授業において、衣生活・食生活・消費生活の分野で持続可能な生活について学習することとした。具体的な、指導案を示す。

家庭科 科目「家庭基礎」 学習指導案 教科書東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造

1 単元名 これからの食生活 6 持続可能な食生活を目指して

2 目標 現代の食生活は、経済の発展により豊かで便利になったが、健康や安全に加え食料自給率の向上や環境負荷の低減など多くの課題がある。

広い視野で持続可能な食生活について考え各自の食生活を見直す行動ができるようにする。

3 単元指導計画

食生活をつくる

食生活の課題について考える	1 時間
食事と栄養・食品	3 時間
食生活の安全と衛生	2 時間
生涯の健康を見通した食事計画	1 時間
調理の基礎	7 時間
これからの食生活	2 時間本時 (2/2)

4 本時の計画

(1) ねらい

生活が豊かで便利になった反面、食生活では食品産業の発展により外部への依存が多くなった。その結果、自給率も低い状態である。また、無駄な食品も多く購入し廃棄しているため、食品ロスが問題となっている。食物は、生産から廃棄まで一連のサイクルであることに理解を深め、各自ができる改善方法について学ぶ。このことから、持続可能な食生活を目指すことを意識させたい。

(2) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	① 前日の食事について聞く 外食・弁当・手作り	・家庭での食事について課題を見つける
展開	② 食料自給率について 日本の現状を確認 インターネット資料を視聴 ③ 日本の食料自給率が低い理由について グループで話し合う グループで発表 ④ どのような対策を行えばよいかグループで話し合う ⑤ 食品ロスの原因について グループで話し合う ⑥ 持続可能な食生活を営むには、家庭や学校でできることを考えて発表 1～3班 家庭 (1) 4～6班 学校 (2) ・発表中に出てきたキーワードを確認 (1) 計画的な調理 外食 大量購入 地産地消 (2) 給食の残飯 コンビニ弁当 調理実習 食品ロス ・食生活には一連のサイクルがあることを確認 (生産・加工・輸送・流通・選択・購入・管理・調理・食事・片付け・廃棄)	・ワークシートに記入 ・視聴の感想をまとめる ・グループ内での話し合いが積極的に行われているか机間巡視 ・身近なことからできることに気付かせる ・食生活を取り巻く様々な問題について考えさせる ・各班パワーポイントを簡単に作成 ・後日、校内に掲示することを予告 ・ポスター用に編集
まとめ	持続可能な食生活を行うために各自が行動できることを確認する。 ⑦ 自己評価シートの記入	・校内発表用のポスターの期限確認

家庭科 科目「家庭基礎」 学習指導案 教科書東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造

1 単元名 経済生活を営む 6 これからの消費生活と環境

2 目標 経済的な自立を見すえ収入を得る力、お金を管理する力、適切な消費行動をする力を身につけ、持続可能な社会の一員として主体的に行動ができる総合的な力を身に付ける。

3 単元指導計画

経済生活を営む

職業生活を設計する	1 時間
計画的に使う	1 時間
国民経済・国際経済と家庭の経済瀬克	1 時間
現代の消費社会	1 時間
消費者の権利と責任	2 時間
これからの消費生活と環境	2 時間本時 (1/2)

4 本時の計画

(1) ねらい

一人一人の消費行動が、現在だけでなく将来にわたり、安心して暮らせる持続可能な社会を作る基礎となる事を理解させる。また、資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え実行することにより、SDG s にもつながることを認識させる。

(2) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	① 家庭のごみの処理の方法 リソース・リユース・リサイクル	・各自が家庭のごみの処理方法をノートに記入
展開	② ごみはその後どうなるか グループでの話し合い 残飯 余った野菜 賞味期限切れ食品 冷蔵・冷凍品 Tシャツ 下着 学生服 背広 ジャージ レジ袋 ペットボトル 電化製品 大型家具 各班で発表	・グループ内で各自の処理方法を説明させ課題を見つけさせる ・食品 衣類 レジ袋 家電 別に各班でまとめさせる ・発表の内容を板書し確認する
	③ なぜたくさん出るのだろう 大量買い 流行 無計画購入 認証マークについて学習する	・すべての物は、循環していることに気付かせる 資料集で確認
	④ 循環型社会について P 185 の図を確認する	・各自でこのフレーズから考えられることをノートにまとめる
	⑤ 地球温暖化・温室効果ガス・低炭素社会 自然共生社会について説明	
	⑥ SDG s の取り組みについて説明 ⑦ 自分たちでできる取り組みについて SDG s に関連するものをあげる グループ内で発表	・新聞、報道、地域社会で取りあげられていることをネットや図書から取り上げる ・SDG s について理解していることを発表させ 高校生からできることを意識させる 身近なことから始められることに重点を置くように指導する。
まとめ	⑧ すべての物が循環していること及び SDG s の取り組みを一人一人が実践できることを確認 する ⑨ 自己評価記入	・各自のSDGSを意識した行動を確認する。

家庭科 科目「家庭基礎」 学習指導案 教科書東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造

1 単元名 衣生活と環境 4 これからの衣生活

2 目標 被服資源や地球環境に目を向け次世代に引き継げる衣生活を考える

3 単元指導計画

衣生活をつくる

被服の役割を考える 2時間

被服を入手する 3時間

被服を管理する 3時間

これからの衣生活 2時間 本時 (1/2)

布を用いた生活の知恵 1時間

4 本時の計画

(1) ねらい

(2) 被服資源や地球環境に目を向け、次世代に引き継げる衣生活の在り方を考える。持続可能な衣生活を目指して様々な取り組みを知り、各自が主体的に資源や環境問題にかかわりを持つ行動をとる。

(3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	前時の被服の手入れについて復習	・家庭での被服管理について確認する
展開	<p>① 日本の繊維について 日本の歴史 富岡製糸 絹織物</p> <p>② 被服の輸入について理解していることを発表 輸入国 製品など</p> <p>③ 被服の資源化 リデュース (廃棄物の発生抑制) リユース (再使用) リサイクル (再生利用) 各自の衣服で着なくなった服をどのような処理しているか発表 リフォーム 人にあげる フリーマーケットに出店 資源回収に出す ウェス 外国への輸出</p> <p>④ 今後の衣服を購入する際、気を付けること サイズの確認 長く着られるデザイン 兄弟に譲れるか 大切に着用 手入れ</p> <p>⑤ 持続可能な衣生活に向けて取り組めることを考えよう 文化祭・産業まつり・途上国への寄付 老人施設への寄付 クラス 学校家庭クラブ</p>	<p>・インターネットで調べ学習 ・日本史・世界史の学習内容と関連付ける</p> <p>・輸入品について興味を持たせる</p> <p>・資源としてどのような点に気を付けているか</p> <p>・様々な利用法を積極的に発表しているか ・物資として循環していることを理解させる</p> <p>・各自が今後について考えているか</p> <p>・学校及び地域の行事等に目を向けさせる 各自の家庭でできることを考えさせる 学校行事、クラスおよび家庭クラブで取り組みを考える</p>
まとめ	<p>⑥ 資源の有効利用観点から、購入から廃棄まで考えた被服計画をの必要性を確認する</p> <p>⑦ 自己評価シートの記入</p>	今後の行動について心構えをシートに記入

まとめ

高校家庭科の教育内容の見直しについて 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説家庭編」の中でも「今後の社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められることから、家庭科、技術・家庭科においては、教育内容の見直しを図ることが必要である。」と解説している。教科の内容項目および指導事項や評価基準においても「知識・技能」では、単なる知識・技能の習得のみに限らず、自立した生活を営むために必要な食生活・衣生活および消費生活について理解し情報収集ができることが大切である。「思考・判断・表現」では、生涯を通して自立した消費者として情報収集や適切な行動をすることにより確かな判断を行い、生活の中での問題点などを見つけ課題解決する力を身に付けることが大切である。「主体的に学習に取り組む態度」では生活の中から課題を見つけ問題解決に主体的に取り組む、様々な人々と協働しよりよい社会の構築のために家庭・地域に参画しようとするのが重要である。SDGsについて、高校家庭科の授業で取り上げ、生徒一人一人が生涯にわたって意識して生活することを望んでいる。高校家庭科の授業がきっかけとなり地域社会に積極的に参加したり、自分や家庭、地域の生活向上を図ろうとする実践的な態度が養われることを期待する。今後、授業実践を行い、授業内容の検討を図りたい。

引用文献

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編 文部科学省 教育図書高等学校家庭科用 文部科学省検定済教科書 家庭総合 自立・共生・創造高等学校家庭科用 文部科学省検定済教科書家庭基礎 自立・共生・創造新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価（高等学校 家庭科（共通教科「家庭」））文部科学省 初等中等教育局 教育課程教科調査官 山村 季代 60分でわかる! SDGs 超入門 単行本-(著), 功能 聡子, 佐藤 寛 (監修)